医療ソーシャルワーカーの研究活動の現状とその促進要因

○　西九州大学　大学院生活支援科学研究科健康福祉学専攻（前期課程）　鍋内　哲朗（10478）

黒田　研二（西九州大学　大学院生活支援科学研究科健康福祉学専攻・2797）

キーワード：医療ソーシャルワーカー、研究活動、促進要因

１．研 究 目 的

医療機関では、医師をはじめ、国家資格を持つ多職種が勤務している。そこで、CiNii Articles にて 2024 年 6 月 10 日時点で「医療ソーシャルワーカー」（以下、MSW とする）、または国家資格を持つ他職種の「職種名」（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師、管理栄養士）AND「研究」で、ヒットする論文件数を調べたところ、MSW の論文件数が臨床工学技士に次いで２番目に少ないことが判明した。看護師に関しては、安田らは大学病院看護師の臨床看護研究における実践力自己評価と研究活動との関連から研究支援を充実させる方法を検討し、中谷らは看護師の研究の認識と研究経験との関連から研究活動を活性化させる条件を検討するなど、研究活動の促進を図る研究が行われているが、MSW においては、研究活動の促進を図る研究は行われていない。そこで、本研究では MSW の研究活動の現状を把握し、その促進要因を明らかにすることを目的とした。

２．研究の視点および方法

九州北部３県の医療ソーシャルワーカー協会の協力を得て、その会員計 600 名を調査対象とし、Google フォームによる web アンケート調査を実施した。調査内容は、回答者の属性、所属医療機関の特性、研修会・研究に関する経験、MSW の業務、MSW としての自己研鑽、研究に関する認識、研究遂行能力に関する自己評価、専門職としての認識、研究を行うために職能団体に求める支援について、44 の質問項目で構成した。調査期間は 2024 年 12 月 10 日から 2025 年 5 月 6 日までとし、回答があった 71 名（回収率 11.8%）を分析対象とした。分析は、「研究経験」の有無別に２群に分け、２群間で回答者の属性、所属機関の特性、研究遂行関連項目の分布に有意差があるかどうかを、カイ二乗検定を用いて解析した。統計解析には SPSS を使用し、有意水準は 5%以下とした。

３．倫理的配慮

本研究は、西九州大学研究倫理委員会の承認を受け実施した。なお、すべての参加者のプライバシーを保護し、氏名、年齢、医療機関名は無記名とし、個人の特定はできない。また、本報告に関し開示すべき COI はない。

４．研 究 結 果

「研究経験あり」の人は 41 名（57.7%）、「研究経験なし」の人は 30 名（42.3%）であった。２群間で分布に有意差があった項目は表 1 のとおりである。

表1　研究経験の有無と有意に関連した項目

分類	項目	カテゴリー	研究経験あり n＝41	研究経験なし n＝30	χ²検定 p値
回答者の属性	経験年数	10年未満	12.2%	63.3%	<.001
		10年以上から20年未満	46.3%	16.7%	
		20年以上	41.5%	20.0%	
	福祉の最終学歴	大学院（修士）	9.8%	3.3%	0.05
		大学	85.4%	73.3%	
		専門学校または各種学校	4.9%	23.3%	
	資格（介護支援専門員）	あり	53.7%	23.3%	0.01
		なし	46.3%	76.7%	
所属医療機関	医療機関内で研究の発表の機会	あり	70.7%	46.7%	0.04
		なし	29.3%	53.3%	
	所属部署の職種（医師）	あり	19.5%	3.3%	0.043
		なし	80.5%	96.7%	
	日々の医療ソーシャルワークを振り返る機会	あてはまる	82.9%	53.3%	0.007
		あてはまらない	17.1%	46.7%	
研究遂行関連項目	研究指導を受けた経験	あり	70.7%	13.3%	<.001
		なし	29.3%	86.7%	
	研修受講の経験	あり	100.0%	80.0%	0.003
		なし	0.0%	20.0%	
	研究設問を見つけることができる	あてはまる	63.4%	36.7%	0.026
		あてはまらない	36.6%	63.3%	
	研究仮説を立てることができる	あてはまる	48.8%	10.3%	<.001
		あてはまらない	51.2%	89.7%	

なお、分析対象者全体において、多くの人が「研究は興味深い」（81.7%）、「研究は必要である」（90.0%）と回答していた。また、職能団体に求める支援として、「研究方法、研究発表及び論文作成・投稿方法に関する研修」、「先輩 MSW・大学教員からの指導」、「大学と共同研究」の機会を増やすことを約８割の人が求めていた。

５．考 察

MSW の研究活動の促進要因を個人の属性、所属機関の特性、その他の要因に分けて考察する。個人の属性では、MSW としての経験が豊富で、経験と知識が蓄積されていることが研究活動を促進すると考えられる。所属機関の特性では、研究発表の機会や日々の MSW 業務を振り返る機会があり、所属部署に医師が配置されているなど、リサーチマインドを喚起する条件があることがあげられる。その他、指導を受ける経験や研修などを通じて研究遂行能力を高めることが研究を促進する要因だといえる。研究遂行能力の自己評価では、研究設問を見つけだし、研究仮説を立てる能力が重要であることが示唆された。なお、本調査は回答率が低く、分析対象者は研究活動に関心が高い層に偏っている可能性がある。